

**(1)ひきこもり支援について**

# 千葉市のひきこもり者数の推計

- 内閣府がR4年度に実施した調査によると、全国のひきこもり者数は推計で**146万人**。
- この調査結果を基に千葉市のひきこもり者数を推計すると、**約12,700人**。(R7.9.30時点の年齢別人口を基に算出。)

(参考) 千葉市内小・中学校の不登校児童生徒数  
令和6年度時点：**2,083人**

# ひきこもり地域支援センターの概要(1/2)

- (1) 設置年月           平成28年2月1日
- (2) 運営形態           委託（特定非営利活動法人ユニバーサル就労ネットワークちば）
- (3) 対象者             ひきこもり状態にある方及びその家族等  
                          （千葉市在住の方）
- (4) 設置場所           千葉市こころの健康センター内  
                          （美浜区高浜2-1-16）
- (5) 開所日             週5日（月～金、祝日・年末年始を除く）  
                          9時から17時

# ひきこもり地域支援センターの概要(2/2)

(6) 職員体制      相談員 7 名 (常勤換算)  
                         ※社会福祉士、キャリアコンサルタント、産業  
                              カウンセラー等

(7) 業務内容

- ① 相談支援 (電話・来所・出張・訪問等)
- ② 関係機関のネットワーク構築 (包括的な支援体制の確保)
- ③ 普及啓発 (情報発信)
- ④ 居場所活動
- ⑤ ひきこもりサポーター養成・派遣

# 相談実績

- R7年度相談件数合計では、年間1,900件ペース。R5,R6と比較すると減少している。
- 相談手段では、来所の割合が高くなってきている。

相談件数（延べ）		R5年度	R6年度	R7年度 12月末現在
	電話	1,010	804	397
来所	センター	822	939	711
	出張所・出張相談	31	78	41
訪問	自宅	162	188	105
	自宅以外	77	58	46
	メール	133	167	49
	その他	201	115	50
	計	2,436	2,349	1,399

# 相談実績(令和7年度12月末現在)

## 1 相談者の続柄 (複数回答)

	本人	家族	その他	合計
相談者の続柄	714	773	120	1,607

## 2 初回相談における対象者の内訳

	男性	女性	不明	合計
性別	62	30	1	93

	19歳 まで	20歳 代	30歳 代	40歳 代	50歳 代	不明	合計
年齢層別	15	24	14	15	16	9	93

# 関係機関との連携

- 個別支援では、関係機関と連携しながら継続的に支援を実施。
- 個別ケース会議にて、こころの健康センターや子ども・若者総合相談センターLinkの職員とともに事例検討を毎月実施。

## 主な連携先

- 生活自立仕事相談センター
- 各区障害者基幹相談支援センター
- 障害福祉サービス事業所
- 各区社会援護課・健康課

# 居場所活動実績(令和7年度12月末現在)

ひきこもり当事者の社会参加と自立を目指すための場として、ひきこもり地域支援センターにて居場所活動を実施している。

ア 「ふらっと」(月4回)

絵画・工作・手芸・調理・散歩・軽スポーツなどのプログラムを実施。

イ 「若者のつどい」(月1回) R5年度～

若者を対象に同世代交流の場を提供。ゲームやスポーツを実施。

ウ 「1日ふらっと」(月1回) R6年度～

プログラムがなく自由に過ごせる居場所。漫画やゲームなどを用意。

	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度 12月末現在
開催回数	51	60	42
参加延人数	130	132	82

# ひきこもりサポーターの養成と派遣

地域に潜在するひきこもりの方を早期に発見し、支援につなぐ役割を担う「ひきこもりサポーター」を養成し、ひきこもり地域支援センターにおける居場所活動での支援に繋げている。

(令和7年度12月末現在)

ひきこもりサポーター 登録者数	居場所活動へのひきこもりサポーターの 参加延人数
46人	21人

# 普及啓発

## 1 ひきこもりに関する講演会の開催（令和7年度）

	1回目	2回目
タイトル	ひきこもり・生きづらさの心情、特性、背景を知る	ひきこもりの理解と対応～ひきこもり専門デイケア27年間を振り返って～
講師	NPO法人楽の会リーラ 理事 上田 理香氏	医療法人社団爽風会 あしたの風クリニック 院長 佐々木 一氏
日時	令和7年6月6日（金）	令和7年11月27日（木）
場所	こころの健康センター	こころの健康センター
参加者数	71人	73人

## 2 ひきこもり家族のつどい（令和7年度12月末現在）

ひきこもりの家族同士が、グループで話す事で思いや悩みを共有し、家族が孤立せずに安心できるよう、今できる事や対応などを一緒に考える場。

（原則偶数月の最終金曜日、土曜日（年1～2回） 計4回・延べ14人参加）

# 課題

- (1) 外出できるようになったり、就労や就学など、目に見えて結果が出るまでには、数か月、数年と時間がかかるケースが多く、また、途中で支援が中断してしまうケースも少なくない。
- (2) 国試算のひきこもり推計者数(12,700人)と、センターにおける相談者数(約400人)を勘案すると差は大きく、ひきこもっていることを隠す等して、相談につながっていないケースが多く存在している可能性がある。

# 新たな施策、今後の展開(1/2)

潜在しているひきこもりの方を支援に繋げるために、ひきこもり地域支援センターを広く周知するとともに、ひきこもりのご本人やご家族にとって相談しやすい方法・手段を用意していく。

## (1) 愛称「ひなた」について

- センター名称に「ひきこもり」という言葉があることで相談がしづらいとの利用者からの意見を受け、愛称を付けた。
- 愛称の「ひなた」は、市と運営事業者との協議により、「ひなた」のように温かい支援を届けたいという想いを込めて付けた。



# 新たな施策、今後の展開(2/2)

## (2) メタバースを活用した支援の試行実施 (R7年10月31日～)

- インターネット上の仮想空間であるメタバース「ようこそ！ひなばーす」では、自分の分身であるアバターを用い、顔や実名を出さずに人との交流ができる。
- スタッフへの個別相談・最寄り駅からひきこもり地域支援センターまでの道のりの疑似体験・ひきこもりに関する情報を見ることが可能。

【URL】 <https://uwnchiba.net/support/hikikomori/>



## (3) SNS相談の実施 (R8年度からの実施を検討中)

- 国内で広く普及しており、実名を出さずに気軽に利用できる手段として、LINEを利用した相談の実施について検討中。